九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

中原中也詩における幼児の表象 ： 「春と赤ン坊」を中心にして

中原, 豊
九州大学大学院博士課程

https://doi.org/10.15017/10476

出版情報：文獻探究. 14, pp.1-12, 1984-06-15. 文献探究の会
バージョン：
権利関係：

とくに問題となるのは真淵説の挿入である。これが実際に真淵の説であるか否かは、いまのところ確めえない。しかし、いずれにせよ、冒頭に真淵の言が置かれることによって、以下叙べられる宇万伎説は、真淵説を敷衍したものであるかのような印象が少なくとも与えられることになろう。『古言梯』出版にあたって、魚彦もしくは宇万伎は、師を顕彰する意味あいで、真淵説を付け加えたのではあるまいか。次に問題となるのは、三の「古事記より今の朝のはじめまで」という古書の範囲を、「附ていふ」では、「古事記よりはじめて延喜承平のころに至るまでの書」と改めていることである。これは『古言梯』が古言の証として依拠する文献として五十音図の下に掲げた古書十一種のうち、一番新しいものが承平年間成立の『和名抄』であることに符合するよう改めたのではなかろうか。これにより宇万伎の説く「古書」の範囲は、『古言梯』の依拠する古書十一種と一致することになるわけであろう。

※　『呵刈葭』の引用は、筑摩書房版『本居宣長全集』第八巻の本文に拠った。また『古言梯』の引用は、勉誠社文庫58『古言梯』の影印に拠った。

（附記）　中村幸彦先生には、ご所蔵の『静舎随筆』の複写をご恵送いただき、また香具波志神社本と天理本との本文異同についてのご教示をも賜わりました。ここに厚く御礼申しあげます。

――九州大学大学院博士課程――

訂　正

本誌前号（第14号）所載の「中原中也詩における幼児の表象――『春と赤ン坊』を中心にして――」において、大岡昇平氏の「中原中也伝――揺籃」の引用部分（一ページ、上段から下段にかけて）に脱落がありました。左に全文を掲げて訂正といたします。

中原はその長子、昭和九年十月十八日に生れた長男文也を溺愛した。その愛は一種迷信的なものにまで進み、子供の生れた後「全国天気一ヶ月余もつづく」と大事そうに記録している。彼は一日中子供と遊んで飽きなかったが、それは子供と一緒に戯れるのではなく、ただ子供を眺めるのを楽しむという遊び方だったそうである。

（「春と赤ン坊」第一・二連引用）

私は有名な「春と赤ン坊」を全部引用しなくてもいいであろう。またここに眠っているのは、赤ン坊ではなく中原自身にほかならぬ。とまた附け加える必要もないであろう。

文也は昭和十一年十一月十日三歳をもって夭折した。中原の悲歎やる方なく、神経衰弱が昂じた。彼が自分と子供との間にどこまでけじめをつけていたかは疑わしい。

（中原　豊）